

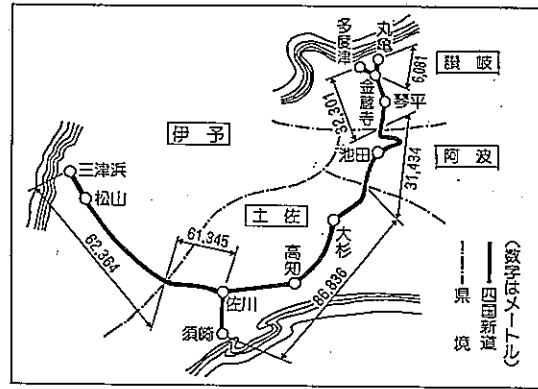
第二節 四国新道

一 大久保謙之丞の構想

明治九（一八七〇）年、道路の種類を国道・県道・里道に分ける制度ができたが、そのころから道路の改良・敷設に情熱を傾けていたのが大久保謙之丞であった。

明治一七年、四国四県を結ぶ新しい道路として大久保謙之丞が四国新道開鑿を提唱し四国新道建設計画を立てたのが三五歳の時であった。この計画は、当時としてはあまりにも壮大なもので、賛否の世論が喧しく起こった。大久保謙之丞が四国四県の協力者を求めて奔走した結果、明治一七年一月一八日、第一回の協力者の会合を琴平校屋旅館で開き、続いて第二回の会合を同年二月二七日に開き、請願委員（篠崎嘉太治ほか四名）・巡視委員（大久保謙之丞ほか二名）を選出するに至った。

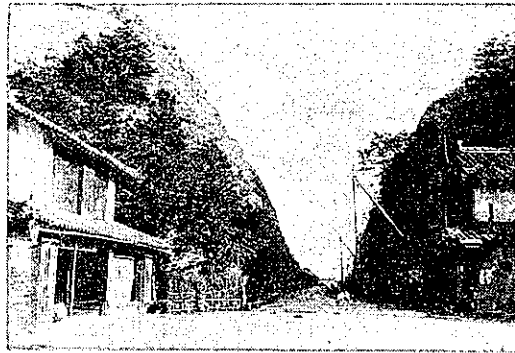
また、愛媛県令の関新平に「高知より徳島県を経て愛媛県多度津、丸亀両港に達する道路開鑿に付いての願」を提出、次いで、高知の田辺、徳島の酒井両県令にも同一七年から一八年にかけて提出した。



四国新道



旧国道（猪ノ鼻峠）



旧猪ノ鼻峠頂上の掘切

明治一八年五月に参事院議官の森有礼、田辺（高知）・関（愛媛）・酒井（徳島）の三県令が現地視察のため琴平に会合し、工事予定地を巡視した。このような経過を経て望望の新道起工式を迎えたのである。

起工式の盛況
四国新道起工式は明治一九（一八八六）年三月一〇日

に高知公園、同年三月二五日に徳島県三好郡池田小学校、同年四月七日に琴平神事場で盛大に挙行された。琴平神事場における起工式の状況を、四月一四日付けの「朝日新聞」は

次のように報じている。

本月七、八の両日は、予記の如く讃岐国那珂郡琴平社内に於て、愛媛・徳島、高知の三県に亘れる国道の起工式を執行したが、高知、徳島、愛媛の三県令を始め臨場したる有志無慮五千余名の多きに及び、儀式を終るや狼煙（のろし）三発を合図に起工に着手し、工夫三〇名火薬を以って其の開削すべき国道に当る山の巖石を破碎し、喬木を倒す。その響き轟然雷の如し。其後昼夜煙花を打揚げ、或は東京、大阪合併の相撲撃剣会又は軽気球を放ち茶番手踊など種々の催しあり、就中、数万の観客に大喝采を得たるに、同国三野郡財田上、中両村の人民百余名、囂義隊と称し、将棋の戯れに模し、坂

に道路開削を是とするものと、非とするものと二隊に分ち、双方の歩兵互いに争論をはじめ、桂馬は滑稽の演説をなし、金銀、飛角は交るがわる是れを討論し、非とする方はいに説破られて敵の論陣に降り、夫より総勢合して各手に鐵を執り踊りをなす。その歌は――

開けや拓け布多那人（ふたなびと）

阿波、土佐、讃岐、伊予かけて

面（おもて）四つ並ぶ國々を

貫き通る新街道

峯をえりぬき巖を裂（さ）き

登り降りの憂なく

火車、馬車、腕車、歩行人（あゆむひと）

皆便利得て知慧進み

海や陸（くぬが）の産物（うみもの）も称増（いやまし）繁殖（さかえ）将来は昇る旭と諸共に

皇国（みくに）の光輝（ひかり）赫きて英仏魯米の國々に

優る基本（もと）の此道を

開けや拓け國富ます

御道は斯道（このみち）可美道（うましみち）

拓けや開けこの道を……

また新道起工に際して、風雅の士が琴平芳橋樓に集まって「餘志故乃」を開筵した。明治一九年四月九日のことであるが、出詠数が一二〇〇余首に達した。財田からは次の二首が入選している。

開くみちみてたしなみヤしゃんせ

おまいの心の七曲り

木逸

みちがひらいて迷いはないが

わしが迷うは恋のみち

春月

二 讃岐新道建設計画

四国新道計画書のうち、讃岐新道計画書は次のようであった。

讃岐新道計画書

延 長 九里二七町四九間九歩

旧道延長 八里三二町

内 訳

1 三里二〇町 平路

自多度津港 至那珂郡十郷村字坪ノ内道巾四間 両側並木敷一間湿拔溝巾五尺深三尺内多度津琴平村市街九町三〇

間並木敷を要せず 平均勾配一間に付三分三厘二毛上り

2 二〇町 溪路

自那珂郡十郷村字坪ノ内 至樫木峠 道巾四間切込 両側湿拔溝巾五尺深三尺 平均勾配一間に付二寸四分一厘上り

3 一里二町一七間八歩 溪路

自樫木峠 至轟橋

道巾四間 平均勾配一間に付一寸二分七厘四毛下り

四国新道総括概表

国別	延長 m	事業費 円	着手	竣工	幅員
讃岐	38,382	256,854	明治 19.4.7	明治 23.3	7間(12.6m) ~2間(3.6m)
伊予	62,364		19.4.7	27.5	
阿波	31,434	78,000	19.3.25	23.3	3間(5.5m) ~2.5間(4.5m)
土佐	148,181	406,710	19.3.10	27.5	5間(9.0m) ~2間(3.6m)
計	280,361	741,564			

の二七年五月、高知・愛媛両県の工事が竣工し、ここに四国新道は完成し、謀之丞の悲願はようやく達成した。しかし残念なことに、謀之丞は新道完成を目前にして明治二四年二月一日、県議会中に倒れ四二歳の若さで世を去った。

- ・四国新道の工事総延長 二八〇・三六一莖
- ・総事業費 七四万一五六四円
- ・工事期間 八年余

大久保謀之丞が計画した四国新道(四国四県を結ぶV_ロード)は、その後の四国の発展に大きく寄与した。

謀之丞が讃岐鉄道開通式で述べた瀬戸大橋架橋も一〇〇年目にし、昭和六三(一九八八)年四月一日に開道し、謀之丞の本州・四国架橋の構想も実現した。

この計画の特長は、第一に広い道幅である。自動車の姿すら見たことのないこの時代に、最小六・三莖、最大一二・六莖という将来を展望した幅員であった。第二に計画勾配が〇・五五ないし四・〇五莖になっていること、第三に金蔵寺・琴平間七莖が直線路になっていることなど、現在の道路建設基準に照合してみても見劣りしない計画であった。

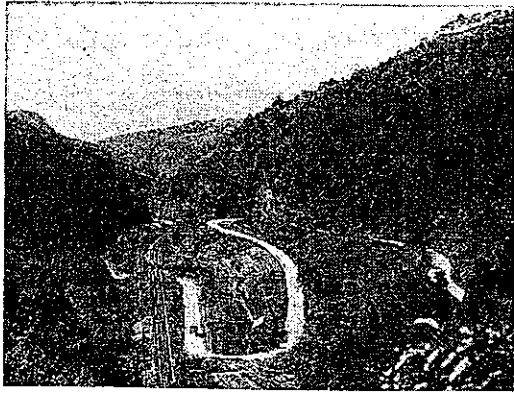
工事は、しばしば難関に出会い思うように進まず、予算以上の工事費を要して苦しんだことは、明治二二(一八八九)年一月に大久保謀之丞が香川県知事の林薫に提出した上申書に切々と述べられている。最も困難を極めたのは岩盤掘削作業で、忍耐と努力を要した。

やがて明治二三年三月、多度津・猪ノ鼻間三八・三八二莖、内丸亀・金蔵寺間六・〇八莖が竣工した。四年後

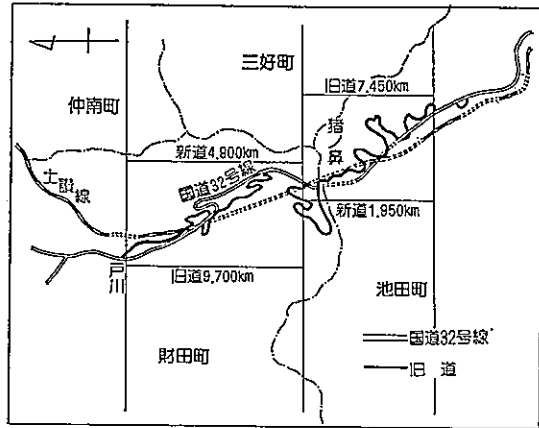
4 二一町五三間九歩 溪路
自轟橋 至戸川

5 道巾四間 平均勾配一間に付一寸四分一厘八毛上り
二里一五町五三間七歩 山路
自戸川 至県境

6 道巾三・五間 平均勾配一間に付一寸四分三厘二毛上り
一里一九町四四間五歩 平路
自金蔵寺支線原点 至丸亀新堀浜
道巾四間 両側並木敷一間湿拔溝巾五尺深三尺内二町五二間五歩丸亀市街並木敷を要せず 平均勾配一間に付三分八厘下り



改修前の旧国道32号線
(JR猪ノ鼻トンネル入口付近)



国道32号線財田町戸川橋より池田町込野橋まで

大久保謙之丞が計画し心血を注いで開鑿した四国新道は、昭和二七（一九五二）年一月五日から国道三二号線となった。

近代産業の発達とともに改修の必要に迫られ、昭和三四年から四一年にかけて改修工事が施工された。猪ノ鼻

四 国道三二号線の改修

隠道^{ひかくち}（八二七呎）・込野隧道（三五四呎）・込野橋（七五呎）などの新設と、財田側の路線付け替えの工事が行われ、財田側で四・八葎、阿波池田側で五・五葎、距離が短縮（従前の三分の一）された。それに伴って昭和四六年三月、旧猪ノ鼻国道のうち九〇二一呎が町道に編入されている。